

修正合算番号単価の算定

(1) H31.7～12月の間の要徴収負担金額の算出 ($A - B - C = D$)

A 徴収すべき負担金総額	B 前年度過不足額	C H31.1～6月(算定月)間の徴収予定額	D H31.7～12月(算定月)間の徴収すべき予定額
●補てん対象額 6,545,132,908円 + ●支援機関事務費 41,913,330円 = 合計 6,587,046,238円	-394,189,886円	①H31.1月分 486,002,106円 ②H31.2～6月分 (予测算定対象電気通信番号の総数の合計適用) 2,435,309,932円 (2円×1,217,654,966番号)	4,059,924,086円

(2) (1)の負担金額徴収のための合算番号単価の算定 ($D \div E = F$)

D H31.7～12月(算定月)間の徴収すべき予定額 4,059,924,086円	F 修正合算番号単価 2.78…円
E 修正番号単価の適用を開始する7月から12月までの予测算定対象電気通信番号の総数の合計 1,460,547,201番号	=
	↓ 3円 ※

※ 総務省告示第429号第4条第2項に基づき、整数未満を四捨五入とした

修正番号単価の算定 【NTT東日本】

(1) H31.7~12月の間で徴収すべき額を算出 (A東 - B東 - C東 = D東)

A東	B東	C東	D東
徴収すべき負担金総額	前年度過不足額	H31.1~6月 (算定月)間の 徴収見込額	H31.7~12月 (算定月)間の 徴収すべき見込額
<ul style="list-style-type: none"> ●補てん対象額 3,715,467,417円 + ●支援機関事務費 23,792,888円 = 合計 3,739,260,305円 	-	<ul style="list-style-type: none"> ①H31.1月分 275,888,211円 ②H31.2~6月分 (予测算定対象電気通信番号の総数の合計適用) 1,382,449,345円 (1.13533750円 × 1,217,654,966番号) 	=
	-		=
	-		2,304,054,440円

(2) 合算番号単価に(1)の算出額を乗じた後、H31.7~12月の間で徴収すべき総額(D東とD西の合計額)で除する。(F × D東 ÷ D = NTT東日本修正番号単価)

F 合算 番号単価	×	D東 H31.7~12月 (算定月)間の 徴収すべき見込額	÷	D (D東+D西) H31.7~12月(算定月)の間 で徴収すべき見込額の総額
3円		2,304,054,440円		4,059,924,086円

= 1.70253511円

修正番号単価の算定 【NTT西日本】

(1) H31.7~12月の間で徴収すべき額を算出 (A西 - B西 - C西 = D西)

A西 徴収すべき 負担金総額	B西 前年度 過不足額	C西 H31.1~6月 (算定月)間の 徴収見込額	D西 H31.7~12月 (算定月)間の 徴収すべき見込額
<ul style="list-style-type: none"> ●補てん対象額 2,829,665,491円 + ●支援機関事務費 18,120,442円 = 合計 2,847,785,933円 	-171,058,195円	<ul style="list-style-type: none"> ① H31.1月分 210,113,895円 ② H31.2~6月分 (予測算定対象電気通信番号の総数の合計適用) 1,052,860,587円 (0.86466250円 × 1,217,654,966番号) 	1,755,869,646円

(2) 合算番号単価に(1)の算出額を乗じた後、H31.7~12月の間で徴収すべき総額(D東とD西の合計額)で除する。(F × D西 ÷ D = NTT西日本修正番号単価)

F 合算 番号単価	×	D西 H31.7~12月 (算定月)間の 徴収すべき見込額	÷	D (D東+D西) H31.7~12月(算定月)の間 で徴収すべき見込額の総額
3円		1,755,869,646円		4,059,924,086円

= 1.29746489 円